

○ 委員長報告

1 2月定例会本会議で報告された観光スポーツ文教警察委員長報告は、以下のとおりです。

令和4年12月定例会

観光スポーツ文教警察委員長報告

報告いたします。

当委員会に付託されました議案の審査結果は、お手元に配付されております委員会審査報告書のとおりでありまして、いずれも原案のとおり可決決定されました。

以下、審査の過程において論議された主な事項について、その概要を申し上げます。

まず第1点は、全国旅行支援「えひめぐり みきゃん旅割」等についてであります。

このことについて一部の委員から、全国旅行支援の本県での実施状況はどうか。また、独自に支援策を講じている市町と連携して情報発信に取り組んで欲しいがどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、11月27日時点では、宿泊割引が12月27日までの予約も含めて約50万人泊、クーポン券利用が約20万枚となっている。当初見込みの43万人泊に加え、専決補正予算で40万人泊を確保し、執行率は6割程度となっている。

また、市町との連携については、4市4町が独自の支援制度を設けているが、キャッシュバックや地域振興券の配付、体験型アクティビティの割引など、内容は様々である。さらに、全国旅行支援との併用ができる、できないといった違いもあることから、今後、利用者にとってわかりやすく周知できるよう検討していきたい旨の答弁がありました。

第2点は、特別支援学校におけるスクールバスの安全対策についてであります。

このことについて一部の委員から、バスの運行状況と具体的な安全対策への取り組みはどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、県立特別支援学校では、保護者の送迎の負担を軽減するため、7校で24台のスクールバスを運行し、約590人が利用している。

安全対策としては、乗車時に運転士と添乗員が児童生徒を把握し、乗車の有無を記録するほか、降車時は担任がバスまで迎えに行き確実な引渡しを行っている。さらに、全員が降車した後、消毒作業等と併せ車内の再点検を行うなどの対策を徹底している。また、感染防止対策で増便している民間借上バス15台

においても複数の職員で同様の確認作業を行っている。加えて、今回の補正予算案では、これら全てのバスに置き去り防止ブザー等の安全装置の設置経費を計上しており、引き続き、安全対策に万全を期していきたい旨の答弁がありました。

第3点は、交通安全施設等整備事業費についてであります。

このことについて一部の委員から、自動起動式発動発電機を更新する理由は何か。また、災害時における信号機滅灯対策にどう取り組むのかとただしたのであります。

これに対し理事者から、県警では、災害発生時における避難路や緊急交通路確保のため、主要交差点に設置している自動起動式発動発電機について、順次更新を行っており、設置から20年を超え、老朽化している10基のうち6基を更新するものである。

信号機滅灯対策については、大規模災害発生時の緊急交通路指定予定路線などの主要な交差点102か所を優先滅灯対策信号機と位置付け、そのうち62か所に自動起動式発動発電機を整備している。残りの交差点については、可搬式発動発電機を接続して電源を確保するほか、警察官の手信号による対応を想定している旨の答弁がありました。

このほか、

- ・年末のベトナムチャーター便
- ・四国遍路の世界文化遺産登録に向けた取組み
- ・学校における換気対策
- ・教員のICT活用指導力
- ・警察職員の採用計画
- ・警察施設と装備資機材の整備

などについても、論議があったことを付言いたします。

最後に、請願について申し上げます。

当委員会に付託されました請願1件については、願意を満たすことができないとして、不採択と決定いたしました。

以上で報告を終わります。